

記入者		連絡先(内線)	
-----	--	---------	--

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号		実施計画番号	
事務事業名			
個別事業名		事業開始年度	
担当課名	担当課名を記載しています。		事務の種類(選択) 自治事務または法定受託事務の別を記載
根拠法令等	実施の根拠となる法律・政省令または条例・規則等の名称と根拠条文を記載しています。	関連事務事業	関連のある他課の事務事業を記載しています。
背景や経緯等	事務事業にどのような背景や経緯があるかを記載しています。		
事務事業の目的	事務事業の狙いとしている目的、どのような状態をめざしているかを記載しています。		
実施状況	どのような事業を実施しているのか、取り組み内容を記載しています。		

### 【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			
正職員以外(選択!)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

### 【事業費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)		0	0	0
うち一般財源	年度毎の事業費と財源の内訳を記載しています。			
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

### 【指標】

活動指標	活動指標名①				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
活動指標	活動指標名②		年度毎の活動の規模を記載しています。 例: デイサービス利用者数、研修会の開催回数、工事による延長距離 等		
	計算式等	単位			
成果指標	成果指標名①				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度
			目標値	実績値	達成度(%)
			年度毎の活動の成果を記載しています。		
成果指標	成果指標名②				
	計算式等	単位			
			目標値	実績値	達成度(%)
			例: デイサービスの利用により自立生活ができるようになった人、研修会を受けて地域で実際に活動している人、一定区間における交通事故発生数 等		

十和田市事務事業評価シート

整理No	
計画No	

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	事務事業の「妥当性」「有効性」「効率性」「公平性」の各項目について、適正であるものはA(2点)、概ね適正であるものはB(1点)、改善の余地があるものはC(0点)の3段階で評価しています。  ※既に改善や見直しを実施しているものについては、評価を★(2点)として取り扱っています。	0	/ 20	存在意義の見直しの余地あり / 4  「妥当性」「有効性」「効率性」「公平性」について、担当課による検証の理由を記載しています。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない					
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない					
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない					
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき					
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済					
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済					
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済					
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている					
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき					
			現在の適性	0	/ 20	改善の余地	20 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

⇒

方向性の理由	<p>担当課長が検証内容を総合的に判断し、事務事業の平成25年度の方向性について、「さらに重点化を図る」「現状のまま継続」「有効性を改善して継続」「効率性を改善して継続」「公平性を改善して継続」「事務事業の統廃合を図る」「休止」「完了・廃止」の選択肢の中から選択しています。また、その理由及び今後の具体的な取組方策と狙う効果を記載しています。</p>
今後の具体的な取組み方策と狙う効果	